

平成23年度寄せられたご意見・ご要望

横浜りとるぱんぷきんず

平成23年度のスタートは、「3・11/東日本大震災」の影響もあり、「なんでもBOX」に寄せられた意見は、放射能の件や、子ども達をとりまく環境についての配慮事項についての意見が多かったようです。区や専門機関に問い合わせながら、意見がでた次の月の園だよりにて、回答をしています。

<ご意見>

環境破壊が進んだいま、昔よりも紫外線量が確実に増えており、子供たちの肌への悪影響は図り知れません。日本で紫外線が強くなり、特に注意が必要な時期は4月から9月末までとのこと。

子供たちが自らUVケアを行う習慣づけのための指導と、UV対策を施した環境を整えていくことに、保育園でもご協力をお願いしたいと思います。

いま現在思いつくご提案は、下記3点になります。

- ① お散歩または園庭へ出る前に、日焼け止めを塗るなどのUVケアを行う時間を取ってほしい。日焼け止めは3時間ほどで塗りなおす必要があり、
- ② UVカットのカーテン（レースカーテン）がありますので、取り付けを検討してほしい。
- ③ プールの時、UVカットのテントを張るなどの紫外線対策を検討してほしい。

<返答 ・ 平成23年5月の園便りにて>

【日焼け止め塗布について】

国や市としての基準がなく、園ではご指摘のUV対策は現時点では行っておりません。日焼け止めなどはかぶれるリスクもあり与薬と同じ扱いとなるため、医師の診断のもと、塗布のタイミングや回数などを確認することが必要であり、限られた職員で対応するのは、難しいと言わざるを得ません。

【UVカットカーテン】

こちらも国や市としての基準や設置義務が設けられていないことから、現段階での必要性はないものと解釈しています。現在は室内での活動時、日差しがある時には適宜ロールカーテンを下げるなど、状況に応じたケアを行っております。

【プール時遮光ネット】

この周辺は風がとて強く、そのために設置しても強風で飛ばされ、却って危険なのではないか、また風が吹いてしまえばあまり効果がないのでは？という工事関係者の意見もあり、どのような方法がよいのか思案しているところです。園としては遮光ネット使用を前向きに検討しているところですが、現状の中でどのような対応ができるのか検討中です。

ご質問にありますように、ご心配は尽きないと思います。ただ園でできる範囲も集団生活を行っている場ですので、家庭と同じように個々に対応することには限界があります。

園では外遊びの際には帽子を着用しております。また紫外線をカットする帽子もご紹介しております。ご心配であれば、長袖着用等で対応していただければと思います。

また日中のUVケアがご心配であれば、園に来園し保護者の方が直接塗布していただくことも可能ですので、ご検討いただければと思います。

<ご意見>

このたびは、福島原発の事故による放射線漏れによる、人体への影響、特に子供への影響について議論が続いています。福島より200キロ離れた関東圏にも「微量」であるとはいえ放射線の影響はまぬがれることなく及んでおり、将来的な健康や生活への影響は暗中模索であるというのが現状だと思います。保育園において、短期的・長期的にもどのような指針にもとづいて放射線から子どもを守るのかを早急に検討をお願いします。

I. 公園や園庭、雑草などの汚染

放射線の地表への降下により、大人よりも地表に近い場所で過ごす子どもたちへの影響が懸念されています。戸外遊びへの配慮、また園庭の清掃などにより、すくなくとも子どもたちの被曝および放射線そのものを減らすことが可能です。必要であれば、父兄の参加協力し、早い段階で園庭清掃を行うことは可能でしょうか？

II. 給食の食材の安全性について

現在、横浜りとるぱんぷきんずの給食は、ワタミ手づくりマーチャング（株）を通しての提供となっております。現状を正しく把握するという意味で、給食の食材で提供される関東圏内の野菜について、放射線の数値データもしくは食材の産地などを公表していただけるよう保育園からお願いしていただくことは可能でしょうか？

<返答 ・ 平成23年6月の園便りにて>

I・お尋ねの件について横浜市子ども青少年局保育運営課に照会したところ、「横浜市環境創造局は空気中の放射能測定のみ実施しており、ホームページで放射性測定値を掲載している。放射能の専門的知識は持ち合わせておらず、問い合わせは文部科学省にされたい。現在、保育所に対して、土壌の清掃の通知等はない。皆様からさまざまな意見はあるが、今後何か方針などが決定することがあれば通知する。」とのことでした。

園としての現段階の対応は、朝福島県からの風向きを確認して北風からの強風が吹いている場合は、外遊びを控えています。また、上記にもありますように、うがいや手洗いの励行、土誇りを落とすように促しています。

II・日本の基準値は日本人の食品摂取状況を考慮した基準値であり、品目ごとに分けている。アメリカはすべての食材をトータルとして基準値を設定している。そのため、単純な比較は難しく、一概に日本の数値が高いとは言えない。現在、市場に出ている野菜については基準をクリアしており、安全性なものが流通している。」とのことでした。

ワタミ手づくりマーチャングライジング(株)の対応については、直接対応していただき、上記の回答の通り対応しておりますので、園としてもそれ以上の対応を行うことは現段階として考えておりません。

もし今の対応にご不安、ご心配であるならば、お弁当を持参される等の対応をしていただく他ないかと思っております。

<ご意見>

昨年も体育館での開催になり、賛否両論があったと思います。

室内でのメリットもあると思いますが、やはり室内での運動会では運動会らしくないです。

体を思う存分動かし、太陽の恵みを受け、楽しむのは運動会に思います。

乳児がいるので室外だと大変なのは分かりますが、マジヨラムの子供の配慮もしていただけると助かります。検討のほど宜しくお願い致します。

<返答 ・ 平成23年9月の園便りにて>

小学校以上の運動会は外で開催されます。確かに外で行われるメリットとして太陽のもとで元気よく楽しむことできることにあるかと思っております。ただ、デメリットもあります。これまでも外で開催していた際に、「風でテントが倒れそうになったり」「砂嵐で、子ども達が競技中に目にゴミが入ったり」等安全面で危惧する出来事も多々ありました。また今回の夏祭りのように「外で行うか?」「室内で行うか?」を検討する際も、二転三転して準備がとて大変でした。また10月とはいえ炎天下での競技になると、熱中症対策についても体育館以上に配慮を必要とします。特に小さい子ほど、そのリスクは大きくなるでしょう。

安全面での配慮以外のメリットとしては、体育館であれば、小さい子も自分の競技が済んだらそれで終了・・・ではなく、大きな子の競技を時間が許す限り観覧できる場所が確保され、大きくなればあんなこともできるようになる・・・ということを実感していただける機会にもなります。

保育園は、0歳児～就学前の子をお預かりする場で、3小さい子から大きい子まで集う場であるというのが、幼稚園では味わえない保育園の醍醐味でもあります。とはいっても、体育館で実施したら、マジヨラムの子の種目や活動が制限されるということは決してなく、組体操等、外よりはダイナミックに行えます。

青空のもとで行う雰囲気以外は、外で行うメリットよりも体育館で行うメリットのほうが大きいと判断しての体育館での開催といたしました。

小学校に入学すれば運動会は外で行われるので、卒園後は外での運動会を思う存分楽しむことができます。それまでは、赤ちゃんからも楽しめる体育館での運動会を楽しむ!という、また違った経験を今の時期にだからこそできるとお考えいただければ、体育館での運動会の経験も価値があるものになるのではないかと思います。

本来ならば、近隣の小学校の体育館を借りるのがベストなのですが、多くの方に来場いただくためには、近隣の体育館は手狭なため、今年度も下田小学校での開催とさせていただきますことになりました。

その点を皆さま方に、ご理解していただければと思います。年に一度の運動会です。子どもの成長した姿をみんなで見る楽しい会に出来ればと思っています。